

## 商品市況展望

平成 25 年 12 月 8 日記

### とれんど捕物帳 もう少し円安の動きは続きそうな気配も

掲載日時 : 2013/12/07 (土) 09:00

配信日時 : 2013/12/07 (土) 08:50

今週は ECB 理事会、米雇用統計と重要イベントを通過したが、結局、ユーロの買戻しが強まる一方で、円安の動きは継続している。

ECB 理事会後のドラギ総裁の会見はハト派色が強かったものの、ある程度予想通りで、むしろ、早期の追加緩和はむしろかしいのではとの見方が広がっている。

前回は述べたが、ECB も手詰まりなのだろう。マイナス金利は短期金融市場を歪める危険性もあり、リスクとリターンが見合わない可能性も大きい。一方で、長期流動性供給オペ (LTRO) を再度実施しても、金融機関からの需要がどれだけあるかは未知数。金融機関からすれば、その資金を受け入れることは、市場から資金を適度な水準で調達できないためではとの悪評にも繋がりがかねない。ゼロ金利政策はそれ自体はさほど効果がないということは他国の状況からも明らかとなっている。そこで台頭しているのが、英国の融資のための資金調達スキーム (FLS) のような中小企業 (SME) への資金供給対策だ。ノボトニー・オーストリア中銀総裁は「SME への流動性拡大につながる新たな措置を導入すべき」との認識を示し、ECB が検討していることを明らかにしている。これであれば、これまでのような大規模緩和ということにはならないだろう。

一方、米国のほうだが、米雇用統計は非農業部門雇用者数が 20 万人超の増加となり、失業率も 7.0% まで低下、労働参加率も前回から上昇し、ポジティブな内容だったと言えよう。早期 QE 縮小期待を高めそうな内容ではあったが、米国債利回りの上昇も一時的で市場の反応は結果ほどには出ていなかった印象。一部からは労働参加率は上昇していたとはいえ、なお低水準で推移しており、FRB が QE 縮小を急ぐほどの説得力はなく、これまでの 3 月以降の QE 縮小開始というシナリオに変化はないとの見解も出ていた。

しかし、どうだろうか。確かに 12 月 FOMC での QE 縮小開始という見方は時期尚早なのかもしれないが、少なくとも、発表前よりは期待を高める内容だったようには思える。12 月か 1 月に開始してもおかしくはないだろう。低水準の労働参加率はベビーブーマー世代 (1946~64 年生まれ) の退職期入りや大学進学率上昇など人口動態や社会変化が影響している部分も大きく景気ばかりが要因ではないだろう。

むしろ気掛かりなのは、インフレの動向かもしれない。米雇用統計の発表で陰に隠れてしまった感もあるが、PCE デフレーターも同時刻に発表されていた。前年比でプラス 0.7% と 09 年 10 月以来、コア PEC もプラス 1.1% と 11 年 3 月以来の低水準となっている。12 年 3 月以降、インフレ率は右肩下がりが続いており、デシインフレへの懸念は残る内容ではある。また、年末商戦の苦戦も気掛かりではある。値引きしないと売れないといった状況もあるようだ。こちらも低インフレに結びつく話ではある。

ただ、米雇用統計の結果からは 12 月か 1 月の縮小開始というシナリオは十分に可能性があるとの個人的には考える。

さて来週だが、ドルとユーロはどうなるか未知数なところもあるが、金曜日の動きを見ても円安期待だけは鉄板のようだ。米雇用統計後、米株が反転しているが、このまま一足早いサンタクロース・ラリー

一に入るようであれば、更なる円安も期待される。日経平均も今週末には再び反転の兆しが出ている。今年一杯での証券優遇税制の廃止に伴う売りも懸念されるのかもしれないが、今週の下げである程度一巡感も出ているのかもしれない。もっとも、売買の6割超を占める外国人投資家には関係はないが。

今週の円相場は調整の動きも見せていたが、過熱感は全く払拭されていない。その辺は気掛かりではあるが、もう少し円安の動きは続きそうな気配はある。

(Klug シニアアナリスト 野沢卓美)

こういう経済記事というのは、慣れていない人には読みにくいものだ。一応、そういう人向けに一言で簡単に言うならば…

- 欧州には、打つ手が見当たらないので現状維持。
- アメリカ経済は好調で、来年3月までにはQE3は縮小に向かうだろう。
- アメリカもデフレ状態になっている。
- 円安、日本株高傾向は続くだろう。証券優遇税制は廃止されても、外国人には関係ない。

これはあくまでも野沢氏の意見であるが、**当方も基本的にはこの見方に賛成だ**。来年4月の消費税引き上げに関しても、それで消費が落ちる事はあるとしても、それ以上の経済対策をきちんと政府が実行できれば、景気は落ち込まないで済むと考えている。

なぜかテレビでは、「来年は景気が悪くなる」のオンパレードであり、なぜそこまで悲観するのか良くわからぬ。景気予測というよりは、まるで景気が悪くなって欲しいが如き話ばかりであり、つまりは自民党・安倍政権が嫌いだからアベノミクスもダメ。坊主憎けりや袈裟まで憎い、というヤツなのだろう。アホらしいとしか、言い様がない。

また今回の特定秘密保護法の成立に関しても、国民の大多数が反対してるだ、一般人が逮捕されるだ、戦争になるだ、とやたらと極論を煽るマスコミだが、取り上げる時間のほとんどが市民運動家を自称する左翼売国勢力の意見ばかり。

軍事・外交機密が外に漏れちゃまずいでしょ！ 賛成多数を強行採決と言うのは、民主主義の否定でしょ！ と当方なんぞは単純に思うわけだ。

当方は、特定秘密保護法に賛成だ。ただしセットで情報公開法も成立させるべきで、50年後でも100年後でも良いが、すべての特定秘密は明らかにすべきだとの考えだ。もしもこの時代の施策に失敗があったとしたら、後世に反省するために情報公開する事は必要だろうから。

そういう建設的な意見には賛同するが、何が何でもダメという論には与しない。

## 〔貴金属〕

○東京金日足  
…削除済み…

### 今週の金の値動き

	12月限(当限)	前日比	10月限(先限)	前日比
12月2日	¥4,106	19	¥4,110	17
12月3日	¥4,057	-49	¥4,063	-47
12月4日	¥4,029	-28	¥4,034	-29
12月5日	¥4,064	35	¥4,071	37
12月6日	¥4,030	-34	¥4,038	-33

金相場は、先週号においては『円安&他商品高の影響もあって反発局面に入っているが、あくまでもこれはテクニカルなものだろう。トレンドが変わるほどの上昇相場にはつながらないと思われ、戻り売り方針には変化がないだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けの4,100円台からは反落に転じた相場が、4,001円(12/5)まで下落。そこからはまた多少反発し、週を終えた。

なおその後の夜間取引では4,112円の高値まで記録し、終わりは37円高の4,075円。結局は、このところの下値もみ合いが継続中という事である。

チャートでは、トレンドは売りのまま。ただし4,000円割れは過去3度買い場になっているため、安値警戒感もあって一気に崩れない、というのが現在の相場であろう。

またNY金も相変わらずの下げトレンドであるが、国内相場は円安が影響して下げ渋っているという側面もある。だが買いトレンドへの転換は、困難だと見ている。

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年12月	¥4,519	12月25日	¥5,081	2月7日	¥3,745	6月28日	¥4,030
2014年2月	¥4,759	2月26日	¥4,979	3月21日	¥3,751	6月28日	¥4,040
2014年4月	¥4,585	4月25日	¥4,760	5月10日	¥3,749	6月28日	¥4,033
2014年6月	¥4,031	6月26日	¥4,531	9月4日	¥3,750	6月28日	¥4,034
2014年8月	¥4,424	8月28日	¥4,532	9月4日	¥3,975	10月16日	¥4,038
2014年10月	¥4,254	10月29日	¥4,298	10月31日	¥4,001	12月5日	¥4,038

○NY金日足  
…削除済み…

12/6のNY市場では、前日比2.9ドル安の1229.0ドルでの終了。安値は1210.1ドルあり、2再び新安値の更新となっている。それでも国内夜間取引が反騰したのは、1円以上の円安となったためであり、それ以外の要因は無い。

…中略…

とにかくこのところ何度もアップしているが、金融資本は金相場には悲観的。米国もデフレ傾向になって来ているのだから、それも当然であろう。

- ゴールドマン・サックス…来年の金相場見通し 1050 ドル
- シティグループ…年末までに 1250 ドルまで下がる
- モルガンスタンレー…1200 ドルまで下落
- 英サクデン・フィナンシャル…1100～1500 ドル、年平均価格を 1280 ドル
- 仏 BNP パリバ…2014 年見通し 1095 ドル
- UBS インベストメント・リサーチ…来年の平均金価格を 1325→1200 ドルに引き下げ←New  
このように、軒並み弱気のオンパレードなのである。

なお CFTC 発表の 12/3 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 12/6 現在での ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、金への資金流入は全く見られず、トレンドの転換は困難なものだと見られる。国内相場の唯一の買い材料は円安のみであり、戻り売り継続のままであろう。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの値動き

	12月限(当限)	前日比	10月限(先限)	前日比
12月2日	¥4,522	10	¥4,546	13
12月3日	¥4,492	-30	¥4,519	-27
12月4日	¥4,479	-13	¥4,509	-10
12月5日	¥4,489	10	¥4,529	20
12月6日	¥4,470	-19	¥4,507	-22

プラチナ相場は、先週号においては『逆張り相場からはまだ抜け出せないだろう。突っ込みは買い、大きく戻ったところは売りで良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、4,475円(12/4)の安値まで下落。しかし引け値ベースでは4,500円台を維持しており、週末の夜間取引でも4,500円台半ばまで上昇している。

チャートでは4,956円(9/4)は天井、4,740円(11/15)は戻り天井という格好であるが、安値もまた切り上がっている格好であり、相場は大きな三角持ち合いにはいつているのかな?という情勢である。

ファンダメンタルズでは弱気金の相場と比べ、プラチナ相場は供給不足でもあり、Jマッセイ社の強気見通しもある。…中略…

ジョンソン・マッセイ社の相場予測は、以下のとおり。(発表後から下げているわけだが)

- 2013年のプラチナ需給は18.8トンの供給不足。(前年の10.6トンの不足から拡大)
- 2014年も供給不足が続く見込み。
- 価格予想レンジ1360~1580ドル、平均1465ドル。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年12月	¥4,249	12月25日	¥5,300	2月8日	¥4,122	6月27日	¥4,470
2014年2月	¥4,831	2月26日	¥5,052	3月12日	¥4,125	6月27日	¥4,483
2014年4月	¥4,622	4月25日	¥4,999	5月16日	¥4,109	6月27日	¥4,483
2014年6月	¥4,284	6月26日	¥4,948	9月4日	¥4,125	6月27日	¥4,495
2014年8月	¥4,810	8月28日	¥4,956	9月4日	¥4,302	10月4日	¥4,500
2014年10月	¥4,648	10月29日	¥4,740	11月15日	<b>¥4,475</b>	<b>12月4日</b>	¥4,507

週末現在のサヤは、4,507円(プラチナ) - 4,038円(金) = 469円。

…中略…

結論として当方の相場観は、ファンダメンタルズでは金よりも強いが、相場は金の下落の影響を大きく受けている。よってトレンドは下向きのままであり、南ア材料など独自の強烈な買い材料が出ない限りは、プラチナの単独高は難しいだろう。

## 〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

まずは原油から…

先週号においては『相場は天井圏に入って来ただろう。どこで売るかを考えるところであり、ひょっとしたら週末の高値で天井を打っていないかとさえ考えている。(また新高値更新したら、踏んで売り直すが良いか)』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は 97 ドル台まで上昇。週末 12/6 は、前日比 0.27 ドル高の 97.65 ドルであるが、高値では 98.07 ドルまでであった。

NY 原油は 3 段逆行の形成～W 底の完成で先週の予測通りに舞い上がり、98 ドル台まで上昇である。ただしここからは、一目均衡表の厚い雲に差し掛かるわけであり、また 102 ドルというのが強い上値抵抗線でもあるため、失速の懸念がないでもない。

いずれにせよ、まずは 91.77 ドルで底打ちはしているわけで、92～102 ドルの範囲で動くのが妥当かな、と考える。

…中略…

また CFTC のファンドの建玉報告は、12/3 現在は…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

今週の東京原油の動き

	12 月限(当限)	前日比	5 月限(先限)	前日比
12 月 2 日	¥68,780	-160	¥67,700	
12 月 3 日	¥70,070	1290	¥69,010	1310
12 月 4 日	¥70,390	320	¥69,210	200
12 月 5 日	¥69,390	-1000	¥68,040	-1170
12 月 6 日	¥69,510	120	¥68,100	60

東京原油は 69,630 円 (12/4) まで更に急騰した後、5 日は急落。その後の夜間取引では、68,610 円の終わり、高値波乱の状況。

底となった 61,130 円 (11/8) →69,630 円 (12/4) までの上げ幅は 8,500 円にも及ぶが、相対力指数の動きなども勘案すれば、ぼちぼち天井圏に入っているだろう。結果的に先週号で予測した「ひょっとしたら週末の高値で天井を打っていないかとさえ考えている」というのはハズレであるが、今後の動きには注目だ。

…中略…

当方としては、ここからは“やはりどこかで売りたい”というのが正直なところであり、5 日の陰線出現で、69,630 円は天井になっていないかな？と再び考えて見たいところである。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年12月	¥60,580	7月1日	<b>¥70,790</b>	<b>12月4日</b>	¥60,000	8月9日	¥69,510
2014年1月	¥62,420	8月1日	<b>¥70,180</b>	<b>12月4日</b>	¥59,720	8月9日	¥68,720
2014年2月	¥63,890	9月2日	<b>¥70,020</b>	<b>12月4日</b>	¥61,410	11月8日	¥68,530
2014年3月	¥62,520	10月1日	<b>¥69,900</b>	<b>12月4日</b>	¥61,250	11月8日	¥68,420
2014年4月	¥63,780	11月1日	<b>¥69,750</b>	<b>12月4日</b>	¥61,130	11月8日	¥68,220
2014年5月	<b>¥67,680</b>	<b>12月2日</b>	<b>¥69,630</b>	<b>12月4日</b>	<b>¥67,500</b>	<b>12月6日</b>	¥68,100

今週も全限一代高値の更新であるが、週末まで更新が続かなかったのがミソかも。

結論として当方の相場観は、69,630円が天井になっていないか？ 抜けたら踏んでまた売り場探しであるが、チャートでは天井圏であり、ファンダメンタルズでもこれ以上の青天井相場は困難であろうとの見方を採っている。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

### 今週のガソリンの値動き

	1月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
12月2日	¥76,920	-500	¥80,800	-150
12月3日	¥77,400	480	¥81,910	1110
12月4日	¥77,450	50	¥82,200	290
12月5日	¥76,810	-640	¥81,430	-770
12月6日	¥77,030	220	¥81,510	80

続いてガソリンです…

先週号においては『海外原油は上がっていない、現物価格も上がっていない中での、先物市場の急騰劇は内部要因が主流か。どこで売るかを考えるのが、儲けの道だろうと思うが、さて?』とコメントした。

今週の相場展開は、**82,760円(12/4)**まで一段高に駆け上がり、その後は若干反落して週を終えた。またその後の夜間取引では、82,330円の高値まで再び記録しており、相対力指数は70ポイント超で推移の青天井パターンを示している。

**73,620円(11/8) → 82,760円(12/4)**までの上げ幅は**9,140円**にも及ぶ。相場は79,000円に乗せてからチャートのにも完全に青天井を示しており、相対力指数でもずっと70ポイント超での推移は**典型的な青天井相場のパターン**だ。

…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014年1月	¥70,660	6月26日	<b>¥77,940</b>	<b>12月4日</b>	¥69,520	6月27日	¥77,030
2014年2月	¥75,050	7月26日	<b>¥79,550</b>	<b>12月4日</b>	¥71,020	8月9日	¥78,110
2014年3月	¥76,610	8月26日	<b>¥81,430</b>	<b>12月4日</b>	¥73,060	11月8日	¥79,990
2014年4月	¥76,190	9月26日	<b>¥82,070</b>	<b>12月4日</b>	¥73,350	10月8日	¥80,630
2014年5月	¥75,100	10月28日	<b>¥82,620</b>	<b>12月4日</b>	¥73,620	11月8日	¥81,280
2014年6月	¥78,830	11月26日	<b>¥82,760</b>	<b>12月4日</b>	¥78,630	11月26日	¥81,510

12/6 現在の業者間転売価格は、…中略…

11/30 現在のガソリン在庫は、前…中略…

結論として当方の相場観は、相場は典型的な青天井のパターンとなっている。しかし天井圏である事は間違いないので、当方は売りから仕掛ける相場観である事には変わらない。天井形成のチャートパターン出現を待っての売りである。

○東京灯油日足

…削除済み…

### 今週の灯油の値動き

	1月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
12月2日	¥85,240	-590	¥79,330	-390
12月3日	¥86,150	910	¥80,790	1460
12月4日	¥85,620	-530	¥81,000	210
12月5日	¥84,940	-640	¥80,100	-900
12月6日	¥84,830	-110	¥80,200	100

最後に灯油です…

先週号においては『もうちょっと逆ザヤは拡大するかもしれないが、さすがにここからの一段高は想定しづらい。当方には中国との戦争でも織り込もうとしているのか？としか思えないような相場である。(正直、戦争が起きるとは全く思っていないけれども)』とコメントした。

今週の相場展開は、**81,500円(12/4)まで上昇**。9月の高値である81,010円を上抜き、その後は若干反落しての終了である。なおその後の夜間取引では、81,020円の高値まで記録し、再び上げる様相を見せている。

先物4本が一代高値の更新であり、需要期の期近2本は高値更新ならずである。スプレッドの利食い買い戻しも、その要因であろう。

…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014年1月	¥73,900	6月26日	¥86,470	11月29日	¥72,650	6月27日	¥84,830
2014年2月	¥78,000	7月26日	¥86,170	11月29日	¥74,130	8月9日	¥84,700
2014年3月	¥79,130	8月26日	<b>¥84,700</b>	<b>12月4日</b>	¥75,710	11月8日	¥83,460
2014年4月	¥75,440	9月26日	<b>¥82,060</b>	<b>12月4日</b>	¥73,430	11月8日	¥80,820
2014年5月	¥74,290	10月28日	<b>¥81,460</b>	<b>12月4日</b>	¥72,900	11月8日	¥80,240
2014年6月	¥78,410	11月26日	<b>¥81,500</b>	<b>12月4日</b>	¥77,700	11月26日	¥80,200

12/6 現在の業者間転売価格は、…中略…

11/30 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、まだ完全に天井を打ったのかどうかは判らぬが、天井圏に入ってきた事だけは確実だろう。今後は完全に売り狙いへとシフトであり、天井形成のパターンを待っての売り方針である。

## [ゴム]

○東京ゴム日足  
…削除済み…

### 今週のゴムの値動き

	12月限(当限)	前日比	5月限(先限)	前日比
12月2日	269.1	6.3	275.3	5.1
12月3日	267.5	-1.6	273.9	-1.4
12月4日	267.0	-0.5	274.5	0.6
12月5日	267.0	0.0	274.4	-0.1
12月6日	267.9	0.9	275.8	1.4

先週号においては『全く理屈に合わぬ急騰ではあるが、何か壮大な仕掛けが入っている可能性もある。当方はあくまでもファンダメンタルズから見た売り狙いであるが、早めに売りから入るとやけどをする危険もあるので注意だ』とコメントした。

今週の相場展開は、**277.4円(12/5)まで上昇**。

10/17に記録した戻り高値である276.0円を抜き、チャートでは一目均衡表の雲の上にも出た事で、**250円台での3点底を完全に形成**。

今週は275円どころを中心とした横ばいとなったが、相対力指数が70ポイントに接近したことで、またゴム本来のファンダメンタルズには強気材料もない事で、横ばい推移となったのだろう。

また週末の米雇用統計の発表を睨んで警戒感も台頭したのだろうが、その雇用統計の発表後は円安で週明けは全商品が上がりそうなため、**まだゴムも天井は打っていない可能性は大**である。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年12月	231.0	6月25日	282.5	9月9日	225.5	6月25日	267.9
2014年1月	257.0	7月26日	287.1	9月9日	238.7	7月31日	267.8
2014年2月	278.8	8月27日	290.3	9月9日	249.2	11月5日	270.0
2014年3月	277.9	9月25日	278.5	9月25日	251.0	11月5日	271.0
2014年4月	261.1	10月28日	<b>275.3</b>	<b>12月5日</b>	253.5	11月5日	273.9
2014年5月	260.8	11月26日	<b>277.4</b>	<b>12月5日</b>	256.5	11月27日	275.8

当先のサヤは、12月限267.9円～5月限275.8円と**7.9円の順ザヤ**。順ザヤ幅は変わらないが、大きく詰まって同ザヤには向かわないだろう。

**週末現在の輸入採算価格は、…中略…**

国内営業倉庫在庫は、11/10現在で872トン増の6,569トン。3旬連続の増加である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、19,000 元台でのみみ合い。2 万元台までは上がっても不思議ではないが、それ以上となるとどうか？

結論として当方の相場観は、チャートでは 290 円を目指す相場となっても全く不思議ではないが、それでも買いで取る相場ではないというのが当方の考え方。引き付けての売り狙いであり、高くなればなるほど後の下げが美味しいとの見方である。

## 〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

### 今週のコーンの値動き

	1月限(当限)	前日比	11月限(先限)	前日比
12月2日	¥26,010	1110	¥25,280	10
12月3日	¥28,440	2430	¥25,420	140
12月4日	¥27,440	-1000	¥25,620	200
12月5日	¥27,400	-40	¥25,670	50
12月6日	¥27,200	-200	¥25,550	-20

まずはコーンから…

先週号においては『年明けまでこのままおとなしくしてもらいたいが、大きな崩れもまたもう無さそうだ。長い目で見れば、安い場面は仕掛け始めても良いのかもしれないが、勝負は来年の天候相場であろう。(空振りしても怪我が少ない安値で買いたい)』とコメントした。

今週の相場展開は、**25,780 円まで上昇**。チャートパターンは緩やかな買い相場を示唆している。

目標となるのは**26,600 円 (8/27)** という事になるだろうが、あと1,000円程度の上昇では買いの食指は沸かない。だが大豆につられる格好で逆ザヤ化しており、当限も一代高値の更新である。シカゴの状況や円安傾向とも相まって、下値もあまり無い可能性も高いだろう。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおりである。

### 東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2014年1月	¥25,700	12月17日	¥28,890	12月4日	¥23,350	10月3日	¥27,200
2014年3月	¥27,290	2月18日	¥28,750	6月3日	¥24,030	8月12日	¥25,350
2014年5月	¥26,550	4月17日	¥28,970	6月3日	¥23,050	10月15日	¥24,470
2014年7月	¥26,600	6月17日	¥28,410	6月21日	¥23,450	11月20日	¥24,660
2014年9月	¥25,190	8月16日	¥26,600	8月27日	¥24,180	11月8日	¥25,150
2014年11月	¥24,790	10月16日	¥25,780	12月5日	¥24,380	11月8日	¥25,650

また CFTC 発表のファンドの建玉報告は、…中略…

結論として当方の相場観は、このまま大相場に発展するとは思えないため、今回の戻り相場が一巡するまで様子見であろう。次の下げで底打ちしたら、そこから本格的な買い参入であると考えている。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	12月限(当限)	前日比	10月限(先限)	前日比
12月2日	¥68,500	4550	¥56,590	660
12月3日	¥68,500	0	¥58,680	90
12月4日	¥68,300	-200	¥56,570	-110
12月5日	¥68,300	0	¥56,880	310
12月6日	¥68,100	-200	¥56,690	-190

続いて一般大豆です…

先週号においては『出来高が少ない市場というのは（商品市場全体がそうだが）、異常な動きが出るものだ。この大豆相場も例外ではないが、やけどをしたくないので当方は手出ししないとコメントした。

今週の相場展開は、先物は 57,000 円（12/5）と 11/29 の高値と面合わせ。ただし 6 月限、8 月限は一代高値の更新である。

なかなか天井を打たずに確りした状況となっており、10 日の米農務省報告で需給見通しに強気の材料が出れば、もう一段高に舞い上がる可能性も否定はできない。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2013年12月	¥50,680	12月17日	¥70,390	11月28日	¥48,450	1月9日	¥68,100
2014年2月	¥53,000	2月18日	¥65,450	11月29日	¥48,960	8月8日	¥63,010
2014年4月	¥50,910	4月17日	¥63,400	11月27日	¥49,850	5月2日	¥62,010
2014年6月	¥51,760	6月17日	¥61,000	12月5日	¥49,130	8月8日	¥60,380
2014年8月	¥52,600	8月16日	¥57,470	12月5日	¥51,480	10月3日	¥57,000
2014年10月	¥53,600	10月16日	¥57,000	12月5日	¥51,900	10月16日	¥56,690

また CFTC 発表のファンドの建玉報告では、…中略…

結論として当方の相場観は、天井打ち～反落をゆっくり待ちたい。空売りしているわけではないので上がっても困る事もないが、来年の天候相場に向けてはなるだけ安い場面を買いたいという見方は変わらない。

## [為替・株式]

### ○ドル/円相場日足

…削除済み…

三角持ち合い上放れで、103.37 円 (12/3) まで進んだ円安だが、そこからは 3 連続陰線を入れて **101 円台へと調整**。相対力指数では 70 ポイント台を一度大きくオーバーし、天井感も出ていたわけで、この調整は妥当なところ。

しかし雇用統計発表後の週末の NY 市場では、102 円 80 銭台とまた円安となっている。

なお来週の主な予定は、…中略… などとなっている。

### ○日経 225 日足

…削除済み…

週末の一本分だけ入っていないチャートであるが、週末 12/6 は 15,100 円台の安値で始まった後、120 円高の 15,300 円近いところで終了している。また週末のシカゴ日経平均先物は、15,590 円と急騰している。

要は、直近の動きは為替相場と連動しているわけだ。

### ○NY ダウ日足

…削除済み…

週末の NY ダウは、198 ドル高の急騰で 16,020 ドルの終了である。11/29 に 16,174 ドルを記録してから 400 ドル近くの調整を入れてから、再び 16,000 ドル台に乗せたわけだ。

相対力指数の動きは 70 ポイント天井→50 ポイント割れの指数調整→反騰となっているわけで、まだ強い相場を維持している。

---

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス [info@higenaka.com](mailto:info@higenaka.com)